

日本の離島地域における中学生の島外流出に関する研究

ー長崎県対馬市の事例ー

最上智也

キーワード： 離島、対馬市、高校進学、島外流出

1. 背景と目的

我が国に多数存在する離島では、高校や大学進学の際に若者が島外へ進学するケースが多く、地域活力の低下の一因となっている。例えば、島根県隠岐郡の島前地区では、同地域内に高校があるにも関わらず、平成9年から平成20年にかけて35%~55%の中学生が島外の高校へと進学しており、鹿児島県奄美市でも同様に、平成23年から平成25年にかけて11%~14%の中学生が島外の高校へと進学している。本研究の対象地である対馬市では平成24年から27年にかけて4人に1人以上の中学生が島外の高校に進学している。対馬市には、対馬高校・豊玉高校・上対馬高校の3高校があるが、特に豊玉高校と上対馬高校の生徒数の減少が著しく、この2校は長崎県の定める高校の統廃合の基準を満たす状況にあり、中学生の島外流出は対馬市にとって重要な問題である。こういった背景より、対馬市の中学生の高校進学における島外流出の実態を明らかにすることを目的として本研究に取り組んだ。

2. 調査対象地と分析手法

対馬市は九州の最北端に位置する離島であり、九州の本土まで約138kmの位置にある。面積は709km²と日本の島で10番目に大きく、島全体の89%が山林で覆われている。また南北に細長い地形をしている上に、公共交通機関も満足に整備されていないとはいえず、島内の移動は車がないと非常に不便である。本研究では、対馬市役所から提供していただいた対馬市の中学生の進学状況の割合と、対馬市内の全中学生・保護者に対する意識調査の回答のうち「地元の高校だから」進学を希望すると回答した生徒の割合の二つに関して、対馬市の中学校ごとに分析を行った。またそれらの結果と、各中学校から高校までの道のりとの関連をみた。

3. 結論

本研究では以下の結論を得た。(I) 平成24年3月以降の4年間に卒業した中学生の高校別の進学率に関して、進学率の最高値が上対馬高校・島外の高校・対馬高校の三区域に区分できる。その中で豊玉高校周辺の中学校は、近くに豊玉高校があるのにも関わらず島外の高校に進学する生徒の方が多い。この理由として、豊玉高校の部活動の少なさ、生徒数の少なさ、通学の不便さが考えられる。(II) 三区域内において、島外の高校への進学率の高さと、島内の高校へ進学するのに「地元の高校だから」を理由に進学を希望する生徒の比率の低さに、高校までの道のりの長さが影響する。以上より、豊玉高校・上対馬高校の地理的立地の重要性が示唆され、対馬市特有の地理状況を考慮した上で統廃合には特段の配慮が必要であると考えられる。